

平成29年度 白井市市民団体活動支援補助金
公開成果報告会 会議録

1. 開催日時 平成30年6月5日（火）午後2時～午後4時30分
2. 開催場所 白井市役所東庁舎1階
しろい市民まちづくりサポートセンター多目的スペース
3. 出席者 関口宏聡委員長、清水洋行副委員長、黒添 誠委員、石川史郎委員、
福留千亜紀委員、秋本紀子委員、大田茂子委員、迫田妙子委員、
吉井信行委員、五十君みつる委員、浅海仁美委員（名簿順）
4. 欠席者 0名
5. 事務局 岡田課長、松岡主査、長谷川主事
しろい市民まちづくりサポートセンター 石垣センター長、甲斐
6. 傍聴者 41名 内訳：発表団体11名（7団体）、一般市民23名、職員7名
7. 概要

（1）開会

（2）市長挨拶

[市長] 皆さん、こんにちは。市長の伊澤史夫でございます。

本日は、平成29年度の白井市市民団体活動支援補助金公開成果報告会に参加いただきまして、誠にありがとうございます。日ごろから発表団体の皆様、そして市民活動推進委員会の皆様方には、市政の推進に多大なるご尽力を賜っておりますことを厚く御礼を申し上げます。

今日の発表会ですが、今年が初めてということで、今まで市はいろいろな団体に活動支援をしてきたところですが、皆様にじかにこの成果を報告していただき、今回7団体それぞれのお互いの活動を見たり、そして一般の市民の方々もこの活動を見て、素晴らしい活動をしているということを再確認していただき、そして次の活動にさらにつなげていただきたいと、そういう大きな目的もございますので、どうか団体の皆さん、発表をよろしく願いいたします。

市では、この市民協働のまちづくり、そして安心、安全なまちづくりを目指して、市民と一丸となって、このまちづくりに力を入れているところでございます。市民協働のまちづくりは、今日のこの皆さんの市民活動もまさしくそうであります。

今まで市民活動推進センターが白井駅前でありまして、いろいろな団体の方々
の要望を得まして、その場所の問題、広さの問題、いろいろ検討して、この庁舎の改

修の時期と重複いたしましたので、皆様のご要望を何とか応えようということで、調査検討委員会の方々をお願いをして、旧庁舎の1階のロビーのところなのですが、素晴らしい改装ができて、サポートセンターという形で新たに生まれ変わって、白井市の市民活動がまた大きなステップを歩み出したと想っているところでございます。

そして、それ以外のいろいろな団体の方々も、市と協働、あるいはその団体の活動が結果的に公益活動に結びついていると、そういう活動をされている団体が多くありまして、本当に白井のまちづくりは、市民とともにあると、そのように私も感じるところでございます。

そして、安心、安全なまちづくりでございます。この白井市もこの3月には、小学校1年生が、交通事故で尊い命を亡くすという大変痛ましい事故がございました。一昨年もございました。そして、今、電話で詐欺もふえています。一昨年が、市民だけで21件、6,300万円の被害が出ております。そして、昨年は少し減ったのですが、またふえてきており、人の良心につけ込んだ卑劣な詐欺は撲滅しないといけないと思っております。

そういうことも踏まえまして、千葉県知事さんとか警察をお願いして、印西警察署分庁舎も同時にこの5月にオープンをしております。当初は警察署に準ずることを検討してきたのですが、まだ始まった段階で、印西警察のほうも人員的にまだまだ全てそろっていないということで、まだ最終形まで行っていないのですが、免許の更新の手続やいろいろな相談ということで、1カ月だけで二百数十件の来庁者があったと聞いております。市民の皆さんにとっても、警察が身近に感じて、まちづくり、そして安心、安全なまちづくりにも、役所の中に警察があるということで、さらに進むのではないかなと思っております。

これからも市民の皆さんと一丸となって、住んでよかった、住み続けたい、そういうまちづくりをしていきますので、どうかご理解、ご支援、そしてさらなるご尽力を賜りますようお願いいたしまして、挨拶とお礼とさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。

[事務局]伊澤市長は、この後、ほかの公務がございますので、この場で退席をさせていただきます。

[市長]それでは、よろしく願いいたします。

(3) 趣旨・進行説明

[事務局]それでは、本日、市民活動の成果報告会ということで、多目的スペースを使ってのこのような市の事業は初めてということになりますけれども、市民団体活動支援補助金を受けられた団体の皆さんの活動を報告していただくということにな

りますが、この市民団体活動支援補助金を市民の多くの皆さんにはまだお伝えしきれていないということがございます。

市では、これからいろいろな地域課題が山積をして、市民の皆様とともにまちづくりを進めていきたいと思っているわけですが、市民活動団体の皆さんがそういったようなことを目指して活動していく際に、資金的なものが原因で活動ができないといったようなことがございます。あるいは、その活動資金があれば、もっといい活動ができるといったようなこともございます。

そういった背景から、白井市ではこの補助金を活動促進型というものと、活動発展型というようなことで支援をさせていただいているわけです。活動促進型は、今回5団体、報告をいただきますけれども、7万円を上限とする補助金額で、補助率の上限が90%というものでございます。また、活動発展型は2団体、報告がございましたけれども、25万円を上限とし、補助は3回まで受けられるということで、80%補助、それから50%補助、50%補助というものになっております。

こういう補助を通じまして、団体の皆様の自立した活動を応援していこうということと、地域の課題を一緒になって解決していく、そういう地域の活力、あるいは市民活動の輪を広げていこうというようなことが、補助金の主な狙いになってくるわけでございます。

そこで、このたび、こういった新しい機会を設けさせていただきました。補助金の審査については、前にいらっしゃいます11名の市民活動推進委員会という皆様による補助金審査を経て、29年度の7団体の皆様が1年間活動をされてきたわけです。

この公開成果報告会なのですが、市民活動推進委員会に成果をまず報告をする場を設けようということが一つございます。また、市民活動団体の皆様から、多くの市民の皆様にも活動をPRしていただきたいということが、二つ目でございます。そして、お集まりになった皆様、市民の皆様が市民活動の事例を聞くことによって、市民活動の豊かさ、魅力、そういったものを感じとっていただきたい。そして、市民活動に多くの方が、その活動の輪の中の一員として加わっていただければというようなことで、この公開成果報告会を開催したというのが趣旨でございます。

また、この公開成果報告会は、市民活動支援課としろい市民まちづくりサポートセンターの協働により運営をさせていただきます。

これからの流れについてなのですが、皆様にこういう分厚い資料をお配りいたしました。各団体の皆様から、今日の報告のためにつくっていただいた資料を発表順につけてございます。2時10分過ぎから、各団体の発表に入っていくわけなのですが、発表は10分間ということです。発表のタイミングで5分経過しましたらベルを鳴らさせていただきます、皆様の10分間のペース配分になるというようなことで、職員が音やこういった表示で合図をさせていただきますので、その時間を見ながら10分以内に

発表をしていただきたいと思います。

その後、市民活動推進委員会の委員長の進行の下で、委員会の委員皆様による質疑を5分間させていただきます。5分間という大変短い時間ですので、十分な意見交換ということにはならないかもしれませんが、有意義な時間になればというふうに思います。

そして、それを繰り返しながら、途中休憩を挟みまして、全部の団体さんの発表が終わりましたら、委員長から講評をいただき、最後にお知らせをして、4時半に終了をしたいと思います。

初めての取り組みではありますが、多くの皆様が、何かきょうはこの場に来てよかったと思えるような成果報告会になればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、発表に移らせていただきたいと思います。ちょうどこの資料の表紙にございますけれども、順番が書いてございますが、ステップさんを最初に、次にまんぷく食堂さん、ふじ元気ひろばさんということにさせていただいて、ユーカリアンサンブルさんが終わりましたら、一旦トイレ休憩を挟ませていただきたいと思います。

(4) 補助金交付団体からの成果報告（発表10分＋質疑5分）

団体名：ステップ

事業名：学習支援

【発表】

[発表者]では、発表させていただきます。ステップの代表でございます〇〇と申します。座らせていただきます。

皆様、お手元でございます我々の団体の報告書は、質問事項に沿った形で順番に質問に答えているという形をとっております。

まずは、事業目的ですが、文科省が平成26年8月に、子供の貧困対策に関する大綱ということ掲げまして、子供の貧困の連鎖を教育の場面で食い止める方策はないものかという形で投げかけております。それにのっかって、ちょっとこれは古い新聞記事なのですが、昨年度の3月の新聞記事で、無料で学習支援、野田市が教室と、来月から平日夜、全市立中学が対象と。近隣の市町村で取り上げてやっているところもあるわけです。また日本全国で言いますと、対象自治体の7割が取り組んでおる、あるいは検討していると。そういう中で、白井はまだその取り組みがなされていないと。我々のような団体に補助金という形で側面援助をしているという現状だというのがまずあります。

そういう中で、もう一つは、白井市がこういう学習支援ということについて、どれだけの必要性があるのかということをも2年前に白井市保健福祉相談室というところがアンケートをとっています。子供の学習支援事業に関するアンケート。これにのっとっても、当該する要保護、準要保護のご家庭、そういったご家庭から、そういう学習支援があったら、ぜひ入れたいのだけれどもという形で要望が出ているのですね。そういったことに多少なりとも答えるべく、我々の団体が少しそれに対して手助けをしているというのが現状かと思えます。

それが事業目的でございまして、内容は駅前センターという場所を借りてというか、そこを使って、場所は研修室とか視聴覚室です。そこを使って、市内の中学生に、主に英、数、国、あるいは場合によっては、理科、社会、定期試験が前にありますと、この問題はという形でいろいろありますので、質問に応じて答えて勉強の学習の支援をしているという形でございまして。昨年度は、水曜日と土曜日。これは、駅前センターの場所のとりやすさということを考えながら、水曜と土曜が比較的あいているのかなということをやっていたのですが、実は今年度は、火曜と金曜に変えました。なぜかという、実はスタッフが、その日に生徒さんの、受講生の都合もそうなのですが、スタッフがそのときに出席できるのかどうかというのももう一つ大きな課題でございまして、私自身も、昨年度の土曜日は別の研究会等で一切出られなかったというのがあって、ちょっとこれはまずいなということで、ことしは火曜、金曜で、私自身は全部基本的にはあけているという形で、場所を確保して、それでまた時間も、中学生の部活動というのがございまして、3年生は7月ぐらいで引退だと、そこまでは6時ごろまで部活動やっているわけですね。ですから、早めに6時、あるいは6時半ごろから8時半までと。夏休みは、8月はまた別の日程組みますが、9月以降は、引退するので5時から8時まで、一方で受講生の都合を考えながら設定しているというのがございます。

教える側は、私みたく、かつて都立高校の教員だった者とか、塾の指導を経験している者とか、語学に堪能の者とか。また、若い大学生なんかも参加してくれるとうれしいのだけれどもという形で、知り合いの教員に、大学の教員に頼んで、都内で講義の中でビラをまいてもらったのですが、2,000枚まいてくれたと言うのですが、残念ながら応募者が1人もいないと。ちょっと不便だということもあるし、交通費も高いと。我々としては、そういう学生さんが来てくれた場合には、交通費を少しは補助したいというふうに思っているのですが、ゼロであったという形でありました。

問題は、勉強して楽しいという思いをして、勉強に身が入るといいサイクルを見つけられればいいなということがあるのですが、他方で、ほとんど学校に行っていないような子供たちが、こちらに参加することもあるわけですし、そういった

子をどういふふうに対応したらいいのかというのは、実は我々のスタッフの中で、そういう経験、専門のスタッフがちょっと欠けておりますので、そういったところでは、市ないし、あるいは県ですね、教育委員会と連絡をとりながらやっていく必要があったのではないかという問題があるのがございました。

受講生は、地元駅前センターですから南中の生徒が全部だったのですが、その中の1人が途中でやめた形なのですけれども、ほかの10名は書いてあるとおり、1年生1名、2年生2名、3年生8名と。3年生は全員高校へ進学しました。3年生の中の1人には、実は保健室登校の女の子がいたのですね。秋口に、市川のほうの病院に入院したりなんていう子もいたのですが、その子も何とか入試に間に合って合格して、今では元気に県立高校に通っております。

そういう中で、課題はというと、これは市長さんにも聞いていただきかけた内容なのですが、駅前センターでやっているわけなので、そこで我々自身としてはスタッフが10名前後ですから、ほかではありえないのですけれども、市内の各地でやれるような体制がいろいろな意味でできればいいのかなというのは、一番大きな問題としてあります。

また、会の運営においては、会場の確保、あと、会場費の支出。これが非常に大きな問題になります。駅前センターは抽選で会場費を確保しなくてはいけないのですが、抽選は必ず当たるとは限りません。ことしの6月の場合には何とかやっと抽選で外れて、次の2番目の申し出で何とか会場は確保できたのですが、なかなかここは苦しいというところがあります。

指導者の話は、つい先ほど言いましたのでやめます。

あと、次のページ行きますと、実は一番大きな問題としては、こういった、文科省が言っているぐらいですから、地方公共団体が率先してやると。そういう中で我々のような団体が、実際の指導の面ではお役に立つことはあるのかなと思うので、いずれは市できちんとやっていただいて、そのためのステップとして我々が役に立てばいいなというふうに考えている次第です。なぜそんなこと言うかということ、最後に、会計報告を書いていたけれども、実は収入の半分が市の補助金なのですが、支出も半分が会場費なのです。つまり、市の補助金は、全部会場費で消えちゃうということになるのですね。

誤解のないように申し上げますと、会議費というのは、飲み食いの感じになるのですが、実はこれは、年度末に閉講式という形で、卒業生が出て、保護者が集まって、1年間頑張りましたねという会がありまして、そこでの茶菓代でございまして、それ以外のところでは、一切我々の交通費も報酬も一切なしでやっております。

こういう団体ですので、実は今年度は、次の発展型という形で申請して通っているのですが、活動促進型じゃなくて発展型ですね。で、10万円ほどもらえる形にな

っているのですけれども、これをよく見ていただきますと、ことしの市の補助金が3万円で、実は駅前センターの寄附というのは、3万円をもらったのですが、ことしはありませんので、つまり10万円の補助がそのまま。また、会場費がことし値上がりされますので、10万円補助金が出るのですが、10万円全部会場費になって全部消えてしまうと。じゃあこういう補助金が出るのは3年間だとすれば、その先はどうなるのかと。やはり最終的には、市のほうが会場を確保するなり、会場費を負担して、実際にやる団体に中身は任せるという話に持っていく二、三年の間は、我々は頑張っていきたいなという形でやっているのが、我々ステップという団体でございます。

なお、入り口のところで、賛助会員の募集、今言ったようにお金がないものから、ぜひ、応募していただけるとありがたいです。以上で終わります。

【質疑】

[委員長] どうもありがとうございました。時間ぴったりで。そうしましたら、委員のほうから質疑やアドバイスをさせていただきます。いかがでしょうか。

[委員] 二つ質問をさせていただきたいのですけれども、大変意義深い活動だと思っておりますが、他市、お隣の鎌ヶ谷とか、印西の状況と伺いますか、こういった活動があるのかどうか一つ。二つ目が、市の教育委員会の対応というのはどうなっているのかなということをお聞きしたいと思います。

[発表者] 一つ目のご質問では、鎌ヶ谷はことし始めているという話は伺っています。印西の情報は知りません。なお、一昨年時点ですと、流山とか野田でやっていると。ですから、この近辺でもいろいろやっているのではないかと。ただ、私自身がそんなにあちこち出向いて情報集めているわけではないので、できればそれは行政のほうで近隣の情報を集めて、逆に我々のほうに提示していただければと思うので、それはちょっと不十分かと思えます。

もう一つは、教育委員会は、実は昨年度の場合は、例えば地元の南山中学校に、こういう会があるのだけれども、ポスターを貼っていただけないものかと学校長に会いに行きました。去年の4月です。そうしたら、教育委員会のオーケーが出ればやりますよと言ってくれたのですが、後から聞いてみますと、どうも貼っていただけないと。それは教育委員会に尋ねなくて、そうだったのか、尋ねた結果がそうだったのかわかりませんが、去年の場合には、学校現場に貼っていただくということが実際には起こらなかったと。ことしは、そういうことがあったのですから、早めに福祉のほうにもお話して、教育委員会にお話して、やっていただけるように話をつなげてほしいということを行いましたら、やっていただけました。会いに行って、ポスターを貼らせていただきました。それ以外の接触時は、私、個人的には何もやっていないので、もし必要になれば、私どもがもっと教育委員会

のほうにいろいろやってくれというふうにやるのがいいのかもしれないのですけれども、今のところそういうことはまだやっておりません。

[委員]ありがとうございます。

[委員長]ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。

[委員]すごく重要な活動だと思って聞いておりました。スタッフがとても重要だと思うのですけれども、どんな方だとお手伝いできるという感じですか。元教員とか、ちょっと特別な資格が必要とか、そういうところはどうでしょうか。

[発表者]今現在は、大多数は定年過ぎた教員、私みたいな人が多いのですが、60未満の方でも、地域で英語を教えていらっしゃるとか、かつては教員だったという形で、50代ぐらいの方がいらっしゃることもあります。我々としては、本当は白井に住んでいる大学生とかそういった人たちが、交通費かからないわけですから、やってくれるといいなと思っているのですが、なかなか高校生のアルバイトぐらいのお金も出ないというのが、多分後ろにあって、なかなか我々の話には乗っていただけないという現状だろうというふうに理解しています。

[委員]ありがとうございます。

[委員長]ありがとうございました。まだ大丈夫ですか。もうお一方ぐらい、いかがでしょうか。

[委員]桜台センターでも、センターの事業としてそういうことをやっていたりするのですけれども、例えば抽選で部屋がとれないとかおっしゃっていましたが、公民館だけではなくて、多分、駅前センターは児童ルームを併設していますので、そちらのほうからちょっと訴えかけて、児童館を延長開館していただいて、部屋を確保とかいう考え方もできるかなと思うので、ちょっと違う切り口からやってみられたらどうかなと思います。

[委員長]ほかをお願いします。

[発表者]今のお話で、延長というお話ございましたよね。多分その部屋を使える時間帯があって限界があるのですね。多分7時までとか。我々は8時過ぎまでやっていますので、そういったところでそういう条件をクリアできれば、それもやりたいと思うのですけれども、今のところそれがネックになって、そちらをアプローチするということは残念ながらできてないという。それがクリアできるのでしょうか。あるいは、それはどういう形でやればできるのでしょうか。ちょっとその辺が私どもよくわからないのですけれども。ほかの部屋が使用の時間の下限があるわけですね。それに引っかかってしまうというのが現状だろうというふうに思っています。

[委員長]ありがとうございました。ステップさんは今年度も事業採択されて、継続してやられていますので、うちのお店貸してあげるよとか、うちはボランティアでできますよみたいな方がいらっしゃいましたら、ぜひ市民の方々もお手伝いしてあ

げていただければと思います。

そうでしたら、よろしいでしょうか。

[委員] 済みません。追加だけ。私は南山中学校のPTA会長やっていますので、何かありましたら。

[発表者] ああなるほど。そうですか。わかりました。

[事務局] それでは、ステップさんによる学習支援活動の発表を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

団体名：特定非営利活動法人まんぷく食堂

事業名：子どもに食事を提供する事業

【発表】

[発表者] まんぷく食堂の、私は〇〇と申しますけれども、理事長の〇〇が今日はちょっと業務の都合でどうしても参加できませんので、代理ということで、私とこちらが調理師でサポートいただいている〇〇でございます。2名で進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、まんぷく食堂でございますけれども、設立は今年の1月16日という、できたばかりということでございまして、設立におきましては、白井市はもちろん、市の社会福祉協議会、それから大山口の社協の皆様方、それから西白井の複合センターの職員の皆様方、いろいろご協力をいただいて、この代表理事をしております〇〇の意向を受けて設立をした団体でございます。

その目的でございますけれども、一口で申し上げて、子供食堂の運営ということでございます。すなわち、ひとり親家庭や留守家庭の子供や保護者のために、家庭的で安い価格の食事でございますけれども、これを提供させていただくと。

運営に当たりましては、障害者の就労場所とし、社会参加の支援に寄与したいと。ただ、この2番目の目的につきましては、これは日常継続的に子供食堂がオープンできるということが前提となりますので、現状においてはまだできておりません。あくまでも将来的な目標ということになっております。

さて、平成29年度の開催実績でございますけれども、開催場所は南山地区、こちら個人の方のご協力を大変いただきまして、開催をさせていただきました。あとは西白井の複合センターを借用いたしまして、開催をいたしました。南山地区は、今年の4月から7月で5回開催をいたしまして、合計で110名の参加の方をいただいております。それから西白井地区においては、合計12回、各月1回行いまして、335名と。合計で445名のご参加をいただくという成果でございました。

次が、29年度のいわゆる財務状況のご報告でございます。こちらに記載をいたしましたとおり、まず経常収益の部といたしましては、大きいところでは、受取寄附

金、これは任意団体様から21万円、個人5名の方から15万5,300円のご寄附を頂戴いたしております。それから、白井市の助成金もいただき、事業収益と書いていますのが、ご参加いただいた方からの会費の徴収でございます。合計で52万1,800円と。

一方、経常費用のほうは、食材費が6万3,233円、設備費、これは場所を借りるとかそういうことを含めて10万1,517円、合計で16万4,750円となっております。

ただ、これはまだ初年度でございます、これからいろいろ進めていく事業がございます関係上、いただきました寄附金につきましては、昨年度はごく一部を取り崩しさせていただいて、実際かかりました16万4,000円に見合う額としてだけを使用させていただき、残りについては、今年度以降にということで、事業を計画しております。その今年度の事業計画については、後ほどお話をさせていただくということにいたします。

続きまして、実際の食堂の運営方法でございますけれども、まず、食堂をオープンしておりますのは、毎月1回、第4火曜日の18時から20時、現在は西白井の複合センターということにいたしておりますが、事前打ち合わせは、その1週前の水曜日、18時から19時、同じく西白井複合センターで料理の決定、何を出すか、つくるかということ、それから、おおむねの当日の参加者数の確認、ここでは予約制をとっておりますので、おおむねでございますけれども、そこで確認をすると。それに伴って、食材の確認と、それから購入数量ですね、購入は誰がするのかということ、それからあと、当日の調理の割り振り等を1週前の水曜日に行っております。それから、当日は3時30分に集合いたしまして、6時前までに調理をつくり、午後6時から食事を出すということにいたしております。

さて、一番皆様方の恐らくご興味、何をつくっているのと、それから安全、衛生面ということになると思いますが、こちらにおられる調理師の〇〇先生の方におおむねもう頼っているということで、メニューとしては、おおむね3カ月先まで頭の中に入れていただいておりますので、その中から選んで、食材の指示をさせていただきます。それから、当日は調理の指導といたしまして、仕込み、何ほどのぐらいの熱さまで煮込めとか、そういう細かいところまで。それから味つけ、それから盛りつけ、そういうことを全て指導していただいております。

安全、衛生面といたしましては、検便、調理をする人については、検便を全て義務づけております。それから、当日はエプロン、調理用の手袋、マスク、頭巾等、これを着用するようということが、〇〇先生からの指示でございます。

また、万一の事故に備えては、市のご協力も得て、ボランティア、行事用の保険に加入をさせていただいておると、これだけで十分かどうかわかりませんが、現状はそのようにさせていただいております。

なお、食材の加工というのが、これもコスト上も大きな課題になりますので、こ

れにつきましては、現状、フードバンクさんの大変なご協力をいただいておりますこと、それから、市内の農家の皆さんからも大変なご協力をいただき、この農家の皆さん方の情報として、ボランティアセンターに情報をいただいたり、あるいは食材そのものをボランティアセンターさんにお届けいただき、また我々のほうに頂戴したりということで、大変なご協力をいただいておりますこととさせていただきます。

これが現状の運営風景でございます。こちらが調理室、これは西白井の複合センターの2階でございます調理室での作業風景でございます。それから、こちらが作りました食事です。こちらはそうめんと天ぷらが中心ですかね。右側がお赤飯と杏仁豆腐等がメインということですね。こちらは先月やりました焼肉を中心にした食事というようなこととお作りして、提案をいたしております。

こちらが現在のスタッフの皆さんです。ここに〇〇さんという方、毎回出ていらっしゃる方がたまたま写真を撮ったときにいらっしゃらなくて、写っていないと。大変申しわけないのですけれども。大体こういうメンバーが中心になり、かつボランティアセンターさんからのご紹介の方で、お手伝いがこのほかに四、五名加わって、毎回進めさせていただいております。平均年齢は不詳でございます。

最後に、今年度の課題でございますけれども、まず一番大きな問題は、本当に必要とするところに、我々の活動の情報が届いているかどうかということの問題でございます。このことについては、地道にこれからも努力をしてみたいと。今日も簡単なチラシが用意してございますので、お持ち帰りいただいて、皆さんのほうからも話題にしていただければと思います。

それから2番目は、今年度、まず月2回、これをやるということに取り組みたいということをお考えしております。こちらについては、場所ですとか、スタッフの問題でございますので、また皆さんのご協力をいただきたいと思います。

それから3番目は、ホームページの開設をしたいと。これはもちろんスタッフの方の協力の呼びかけとか、資金とか食材の応援の呼びかけとか、そういうことをホームページを通じてやりたいということとさせていただきます。

それから、運営資金というのは、これは継続的に必要でございますので、我々としても、各イベント、夏祭り等に参加をするをいたしまして、何らかの形で自分たちも稼いで、貢献をしていきたいということで今考えているところでございます。

以上でございます。ありがとうございました。

【質疑】

[委員長]皆さん、時間ぴったりに終わらせて、すごいなと思いましたがけれども。そうしましたら、委員の方々からご質問、アドバイスあればお願いいたします。どう

ぞ。

[委員]実は、私は全国食支援活動協力会というところの委員をしておりまして、この食支援、食事を通した居場所づくりとか支援にすごく関心があって、興味を持ってお伺いさせていただきました。

一つ最初にお伺いしたいのが、ご存じのように、子供食堂って貧困対策のタイプと、それからご飯を一緒に食べようよという交流重視のものと思うのですが、まんぷく食堂さんでは、どういう方向を目指されているのかということをもう一度お聞かせいただけたらと思います。

[発表者]本音の部分から申し上げますと、やっぱり貧困対策ということもございませぬけれども、やはりどうしても運営上、そのことをうまく表に表現できないというところは当然ございませぬので、我々は一般の方、皆さん全員参加でと。ただし、食料の量が、当然資金の問題もございませぬので、予約制でということと、最近、ご高齢者の方もいらっしゃいますので、実は今回4月は、定款の変更もいたしまして、ご高齢者の方のコミュニケーションの場としても活用くださいということで、今の定款の変更の申請をいたしているところでございませぬ。ですから、できる範囲では、ちょっと広く受け入れをしていきたいということで考えて進めております。

[委員]ありがとうございます。写真拝見して、多世代の交流の場所になっている感じですごくいいなと思って、拝見していました。

[委員長]ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。もう何かプレゼンが素晴らしすぎて、質問がない。よろしいですか。

[委員]済みません。食事の活動、すごく関心があるので、いろいろ伺ってしまいますけれども、この子供食堂って、各地でいろいろ他者がやっていると思うのですが、メニューのことですとか、衛生のことですとか、何か相談したりとか、何か交流したりしているグループってございませぬでしょうか。

[発表者]今のところはございませぬ。ただ、先ほど申し上げましたように、月2回進めるとかということになりますと、自力だけでできるかということもありますので、今日もこういうせっかくの市の場をいただきましたので、情報をちょっと頂戴して、ご相談できるところはご相談をさせていただいて、協力して進めていきたいなという事は思っております。

それから、これちょっとまた先の話なのですが、食材を自分たちで加工するために、農園、子供農園を開いて、そこを一つの勉強の場、食べるだけじゃなく、遊びの場とか勉強の場にさせていただくとか、そういうこともできたらなということで、いろいろちらっと考えてはいるのですが、まだちょっとこれから仲間とことし相談をしてということになると思います。

[委員]ありがとうございます。そういう思いを支援したいという企業さんもこの

ごろ、新しく財団つくったりして助成金出していますので、ぜひ情報をつかんで活用していただけたらと思います。

[発表者]またご相談いろいろさせてください。よろしくお願いします。

[委員長]あと、お一人ぐらいできますけれども、いかがですか。はい、どうぞ。

[委員]非常に意義深いというか、おおっという感じで拝見しています。月1回という一つの事業なのですけれども、大体来られる方というのはご常連の方ですか。それともいろいろと幅広く動いていますか。

[発表者]いや、まだ今のところほとんど常連の方ですね。

[委員]わかりました。それはそれで非常にいいことですね。予約制ということなので、ぐわっとふえ、それはしようがない、やるということですか。

[発表者]今のところは全部受け入れられるだけの、量をふやして何とか受け入れるということで、何とか今のところはできております。

[発表者2]料理に関しては、今までの経験上でも、自分1人では大体250名程度であればカバーできます。

[委員]そんなに。そうですか。わかりました。

[発表者2]その辺は大丈夫です。

[委員]ありがとうございます。頑張ってください。

[発表者]食材があればということですがけれども、でも、できるだけ今のところはお受け入れするというので、準備も進めてやっておりますので、よろしくお願いいたします。

[委員長]皆様、時間ぴったりということで、それでは、どうもありがとうございました。

団体名：ふじ元気ひろば

事業名：ふじ元気ひろば

【発表】

[事務局]続きまして、3番目の団体で、ふじ元気ひろばさんのふじ元気ひろば事業ということで、ご紹介をお願いいたします。

[発表者]ふじ元気ひろば代表の〇〇です。それと、私のほうは主に畑の活動とか音楽の活動とか、そちらのほうを分担してやっております。もう1人は、元気ひろばの、いつも終わった後、食事をするものですから、調理担当の。

[発表者2]調理担当の調理師の〇〇です。

[発表者]それでは、発表させていただきます。

事業の目的として、去年の1月に、ふじ元気ひろばを立ち上げました。富士地区は新興の住宅地でもあるし、開拓時代からも住んでおられる方もおられますし、非常

に年齢層もかなり広い地域でございます。その中で祭りとか、いろいろな行事がたくさんあるのですけれども、だんだん担い手が高齢化していく中で、私どももその地で保育園を初めて7年になったわけですが、やはり世代間の格差が非常に感じられるようになって、できるだけ新しく入ってきた方に、次の世代を背負っていただきたいなというふうな思いもありまして、白井市もまた、大きなまちに挟まれて、非常にまとまりはいいのですけれども、住民のコミュニティーがなかなかうまくとれていないというところもありまして、町会さんと何回か話し合う機会があったり、連合会の会合に出させていただいたりしたこともありまして、そこで私たちの趣旨を説明させていただきまして、町会全体で協力いただきたいということで、ご了解を得てスタートしました。

昨年3月から、まず畑を利用して、ジャガイモの種植えから始めたのですが、おかげさまで1年間順調というか、外の野外の活動が主なものですから、なかなか天候に左右されたりする部分もあったり。私どもの思い入れだけでちょっと始めたケースがありまして、秋口になりますと、白井の市のふるさと祭りがあったりとか、地元で秋祭りがあったりとか、そういったところでスケジュールの調整が難しくなってくることもありまして、去年は台風が来まして、9月にグループホームの愛の家で敬老会の催しを計画したのですけれども、台風が来まして。子供たちと高齢者の方、なかなか足元が悪い中で集められなくて、中止にしたケースもあるので、おかげさまで、それを除けば、何とかまあまあうまくいったのかなというふうに実感しております。

私は常々思っているのですが、自分たちがいる場所が、子育てしやすく、自分たちも住みやすく、将来そこで老後を迎えて、ああ、このまちに住んでよかったなというふうな場所づくりをしたいなという一念で始めております。そういうことで、年齢層も写真見ていただくとわかると思うのですが、野外の活動にしても、小さい子から高齢者の方まで、幅広い年齢層の方が参加していただいております。

私も、もともと農業の経験がすごくたくさんあったわけではなくて、保育園始めてから、子供たちに何か土に触れることをさせたいなと思って畑を始めたのですけれども、その後、作物をつくっていく中で、子供たちの食を見ていますと、保育園では野菜食べるのですけれども、うちではなかなか野菜を食べないということもございまして、できたら親子で来ていただいて、野菜づくりに参加していただいて、持ち帰って、親子で楽しく食卓を囲んでもらえたらいいのかなとも思うこともありまして、おかげさまでそういう部分については、少し成果が出つつあるかなというふうに思っております。

去年は、ほぼ大体15種類の野菜をつくりました。保育園でも持ち帰ってもらったりとか、来た方に分けてあげたりとか、非常に収穫したものを分けるというときに

は、人が結構集まるのですね。種植えとか非常に地味な仕事というのは、仕事というか、催してなかなか集まりづらくて、食べ物でどうやって来てもらおうかなという工夫はあるのですけれども、多分皆さん分けてもらえるときにははすごく楽しみにして来るのだらうと思うのですが、今月はジャガイモの収穫時期もありまして、チラシを出したら、かなり反響がいいなというのがございます。

それと、昨年11月にバーベキューやったのですね。それはサツマイモ堀りと兼ねてやったのですが、そこにもかなり出席していただきました。基本有料でやっているのですけれども、子供食堂もちよっと兼ねてやっている環境もございまして、中には生活の保護をいただいているお子さんもいたりとかします。表向きはその場で料金を徴収していますけれども、後でちよっとお返ししたりする場面もございました。先ほどおっしゃったまんぷく食堂さんも多分一緒かなとは思っているのですけれども、子供食堂ってイコール貧困にとられがちなところがあるものですから、できるだけそのところはちよっとオブラートに包んだような形で、あまりそのところだけは強調しないでやっていきたいなというふうに思っております。

大変失礼なのですけれども、収支のほうは、私のほう細かくちよっと出しませんで、市のほうには報告は出しているのですけれども、細かいところは出しませんで、申しわけございませんでした。収益的には、5月の鯉のぼり祭りのときに、かき氷、ことしもやりましたけれども、かき氷でたくさん買っていただきまして、その収益を充てることができたのと、やはりフードバンクのほうから食材をいただいていることもかなり大きくて、それとまた近隣の農家の方からも差し入れいただきましたり、あと社協さんのほうからも、食料の支援をいただいたりとかしましたので、比較的、当初考えていたコストよりもちよっと抑えることができて、何とか赤字を出さずに終えることができた次第でございます。

これからの課題ですけれども、やはり、この支援を切られたときにどうしようかというのが、今非常にこの先考えるところでございまして、皆さん団体さんで自前の資金だけではなかなかやっていけないというところがあって、どう工面をしていくかというのが、これからの大きな課題かなというふうに思っています。

これからもよろしくどうぞお願いいたします。ありがとうございました。

【質疑】

[委員長]そうしましたら、今度は質問のほうさせていただきます。皆さんいかがでしょうか。どうぞ。

[委員]先ほどのお話の中で、参加費用とかということがございましたけれども、大体決まっているのですか、お一人幾らとか。

[発表者]幼児さんは、小さいお子様は取っていないのですけれども、基本、小学生

から100円と大人から300円いただいているのですけれども。いただかないときもございます。うちのほうで比較的食材があって、足りているな、間に合うなというときは、お金はいただいていないときもありました。

[委員]他地区といますが、富士地区以外の方もご参加されているわけですか。

[発表者]最初は富士地区というふう限定しようというふうに思ったのですけれども、市内全体ということで受けております。今月は、たまたま私どものところは鎌ヶ谷と船橋の行政境なのですけれども、私どもでやっている保育園の子育て広場というところがあって、そこに地区外から来られている方もいるのですね。船橋とか鎌ヶ谷の方も友達同士で、お母さんの友達同士で来られている方。あの方は船橋だからだめだとか、あの方は鎌ヶ谷だからだめだよとなかなかそういったことはできませんので、限られた中ですので、それが10人も20人も来るということではないので、それはそれとして受け入れはしております。

[委員]わかりました。ありがとうございました。

[委員長]ほか、いかがでしょうか。まだ質問されていない委員の方。じゃなくても。どうぞ。

[委員]やっぱり食のことで物すごく関心を持って伺いました。食って、食材つくるところ、野菜つくるところから食べるところから収穫するところからって、いろいろな人をつなぐ力があるのだなと思って伺っていたのですけれども、ふじ元気ひろばさんは、富士地区というその地区のまとまりをまずつくりたいという、そういうことで始められたと思うのですけれども、1年間やってみて、その手ごたえって何か、こんな人がこういう活動に出てきてくれたとか、こういう人とこういう人がつながったとかというあたりのことが、何か手ごたえなんてありましたら、ちょっと教えていただけたらと思うのですけれども。

[発表者]1組のご夫婦が、毎月来ていただいているのですけれども、ご主人がちょっと認知の方なのですけれども、よく来ていただいて、子供の声を聞いたり、お二人で暮らしているようなところで、やはり小さい子と触れ合ったりすることがすごく楽しかったりとか。あと、ご自分たちで一緒につくった、育てた野菜を大勢の人で食べるということがすごく楽しみだと言っていて、これは大きな成果かなというふうに思っています。ふだん、小さい子は、私どもも保育園ですので、活動を大体目にはしているのですが、喜びようとかというのはよくわかるのですけれども、高齢者の方、どういふふう反応してくれるのかというのは心配だったので、そこはよかったかなということと。

親子で来てくれる方もいらっしゃって、こういうことで親子関係がよくなるのかなというふうな気も、手前味噌なのですけれども、そんなような気がしています。

[委員]ありがとうございます。一緒に野菜つくったりとか、出番があるというの

がすごく、お互い出番がある人同士というか、そういうつながりが何かすごくいいなという感じがいたしました。

[発表者]例えば草取りをしても、自分たちの役割というか、役に立っているのだという、そういうところが多分いいのかなというふうに思っておりますけれども。

[委員長]ちょうど時間となりましたので、これで終わりにさせていただきます。どうもありがとうございました。

団体名：ユーカリアンサンプル

事業名：生き生き暮らすためのお手伝い～音楽ボランティアを通して～

【発表】

[発表者]ユーカリアンサンプルの〇〇といたします。よろしく申し上げます。

今日はいい宣伝になるかなと思って、わざわざ着がえてきました。ユーカリって書いて、コアラがついているユニホームです。アナログで申しわけないのですが、普段はこんな感じで演奏しています。私たちのグループは、上は80代、下は20代のメンバーがそろっていて、異世代交流を仲間内でも楽しんでいます。

ユーカリアンサンプルの紹介は、お手元の資料の最初のところ、ユーカリアンサンプルと書いてあるところにあります。2009年に発足したグループです。今回、事業の名前についている音楽ボランティアを中心に活動を始めたのは、2013年からです。今年度、補助金をいただくに当たって設定した事業名は、ご紹介にありましたが、生き生き暮らすためのお手伝い、音楽ボランティアを通してというものを設定しました。

白井市でも高齢化が随分進んでおりまして、施設で暮らす人たちが増えております。そんな人たちのお役に立てればいいかなと思ったのが、活動のきっかけです。

事業の内容は二つあります。一つは、高齢者施設を季節ごとに定期訪問すること。もう一つは、年齢を問わず地域の人々と音楽を通して交流すること。この二つです。

1年間を振り返ってみて、最初に設定した計画通りにほぼできたかなと、自己満足かもしれませんが、やってよかったなと思っております。

お手元のユーカリアンサンプル演奏の記録をごらんになってください。4月8日から3月28日まで、私たちが訪問したり、演奏したりしたものをまとめてみました。こうやって見ると、あっ、随分頑張ったなと思うのですが、高齢者施設が延べ17回、サロンなどでの演奏が5回、コンサートなどが2回、ほかに、県立北総花の丘公園のステージにも立ちました。総数25回。月平均2回ちょっとぐらいで、訪問演奏をしておりました。

どんな曲を演奏しているのかというプログラムの一例を載せてあります。資料のやまびこ交流会プログラムをごらんください。11月に実施したもののなのですが、や

まびことというのは、ボランティアグループなのですが、目の不自由な方を対象にした音訳グループです。そのグループからボランティアさんと、その音訳のサービスを受けているメンバーとの交流をしたいということで、私たちユーカリアンサンブルにお声がかかりました。目の不自由な方ということで、耳から入る音楽は、貴重な楽しい時間になったかなと思っているのですが、一つ一つの楽器の音を紹介したり、おなじみの曲を皆さんで歌ったりして、楽しいひとときを過ごしました。そこに、プログラムが書いてありますが、音符マークは皆さんと一緒に歌った曲です。青い山脈なんて古い曲から、海の声ってちょっと今どきっぽい曲とかいろいろ混ぜて、みんなで楽しみました。

こちらの写真をごらんください。これは施設で演奏しているときの写真なのですが、先ほどお話に出てきた白井あいの家ですかね。そこで演奏したこともあります。一番端にいる人がボーカル担当で、手遊びとか、脳トレになるような音楽のリードをしてくれているメンバーです。それから、これはあるサロンで行った演奏なのですが、上に写真はめ込んであるのはハンドベルなのですが、ハンドベルを持って行って、観客の皆さんと一緒に参加していただいて、皆さんと楽しんでいるという場面の写真を持ってきました。

それから、1回の演奏で、その資料にもありますように、15曲ぐらいは演奏しています。今回、補助金をいただいたことで、楽譜とか歌集とか、いろいろなものを買うことができました。楽譜はネットでダウンロードして、代表が編曲をして、それぞれの楽器に合うような曲を作ったりしております。それから、同じく今回の補助金でいただいた分で使ったものの例なのですが、12月のサンタの衣装とかにもお金を使わせていただきました。

それから、この活動を続けていく中で、一番私たちが困っていたことは、メンバーの確保です。今現在7人いるのですが、1年間のうちに、何と3人が入れかわりました。7人のメンバーで3人入れかえというのは、すごい厳しい現実なのですが、不思議なことに、1人が出ると、なぜか次の新しい人が入ってくるという状況で、何とか持ちこたえております。

私たちの活動の紹介は、ホームページのユーカリタイムとか、フェイスブックとか、広報しろい、地域情報誌など、いろいろな手段を使って行っています。それから、補助金とは全く関係なしに、今年の1月に、こんな本も出しました。音の流れのままにというタイトルなのですが、私たちの今までの活動を振り返った足跡をまとめた本です。いろいろなことで私たちの活動を紹介しております。

最後に、まとめになりますが、今年度も引き続きボランティアの演奏は行ってきたいと思っています。つい最近、お子さま向けに演奏する機会がありまして、とても好評でしたので、高齢者に限らず一般市民の方たちの輪の中に入って行って、

音楽を通して、いろいろな活動をしていきたいなと思っております。音楽の持つ力は無限であり、これからも白井市の皆さんが生き生きと暮らす、そのためのお手伝いのできたらうれしいなと思っております。

最後にPRです。後ろに、はがき大の紙が置いてありますが、7月22日にユーカリのコンサートを行います。もしよろしかったらお出かけください。

【質疑】

[委員長]白井の皆さんは、本当、タイムキープが完璧ですね。素晴らしいと思います。さて、ご質問お受けしたいと思いますがいかがでしょうか。お願いします。

[委員]貴重な報告ありがとうございます。二つ質問があるのですけれども、一つは、年間で25回のコンサートに大体どのぐらいの方が参加しているのかなというのと、もしわかれば、その中で、演奏を聞かれた方の具体的な声があれば、ちょっとご紹介したいなと思ひまして。

[発表者]訪問しているのは、高齢者施設なので、その施設にいらっしゃる方がお客様ということなので、ほぼ平均20人前後ですかね。あとのサロンとかですと、地域によっていろいろ違ってきますので、一定にこれぐらいという数はちょっと言えません。

それから、お客様の反応ですが、さっきプログラムをお示ししましたとおり、昭和の名曲とか、童謡、唱歌とか、そういうのを得意としております。私たちの演奏のテーマは、心に残る日本の歌というのをテーマにしております。それで、その曲を演奏したり、皆さんで歌ったりしていただくときに、どこがピンポイントで心に触れるのかよくわからないのですが、すごく感激して涙を流す人とか、とってもうれしそうな顔をなさる方とか、手拍子をして参加してくれる人とか、あるいはまた踊り出す人とか、いろいろな反応を示してくれます。認知症の方の施設もよく行くのですが、施設の方が普段はこんな反応しないのに、何とかさんは、すごく生き生きしていたのよと、本当にうれしいお話を聞かせてくださったことがあります。

[委員]ありがとうございます。

[委員長]ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。どうぞ。

[委員]年間で25回、月2回、いろいろなことをされているのですが、7人というメンバーで、練習というのはどんなふうにされていますか。

[発表者]練習は、日曜日の午前中にやっているのですが、私がスケジュール管理をしているのですが、練習回数よりお出かけするほうが多いという状況もあります。月に一、二回練習ができればいいと思うのですが、それも2時間がやっとなことなので、その設定したところもメンバーの都合がつかないと、いきなり本番とかいう人もいて、みんな本番のほうがうまく演奏できるというタイプでそろって

おります。

[委員]ありがとうございます。

[委員長]本番に強いて本当に頼もしいですね。ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

[委員]聞き逃してしまったのかもしれないのですけれども、2009年の発足のときは、最初は音楽が好きの方で集まって、あるきっかけがあって、こういう社会的な活動もされるようになったということではいっしょにいますか。

[発表者]2009年に白井市民の皆さんに、音楽好きな人集まれみたいな感じで声かけをしました。もっとたくさんのメンバーが最初は集まりましたが、どんどん程度が上がっていくにつれて、1人減り、2人減り、7人、8人が常連になりました。最初のうちは、自分たちが演奏していることが楽しくて続けてきた活動なのですが、あることをきっかけに、何かお役に立つことはないかなということで、訪問演奏を始めました。

あることがきっかけというのは、私たち夫婦が言い出しっぺだったのですけれども、お世話になっている病院の併設のデイケア施設に行ったのが、最初の訪問演奏だったのです。そのとき、思いもよらず、とっても喜んでもらえたので、最初の年は、本当に数えるほどしか訪問演奏はしていなかったのですが、ここ近年、月2回、3回もありというような、どんどんエスカレートしてきました。

[委員]偶然から広がった世界という感じなのですかね。ありがとうございます。

[委員長]ちょうど時間になりましたので、どうもありがとうございました。

[事務局]それでは、前半の4団体の皆様の発表をこれで終わりたいと思いますが、これから10分間のトイレ休憩を挟んで、3時半から後半をスタートしていきたいと思えます。それで今、写真撮影などさせていただいておりますが、まちづくりサポートセンターの市民コーディネーターからの撮影で撮らせていただいておりますが、この後、また取材とか、ちょっとインタビューなんかもさせていただく場合もありますが、ご協力などいただけたらと思います。

また、まちづくりサポートセンターでの広報誌の発行の予定もしておりますので、本日のことを掲載する予定でもありますので、この場を借りて、そのことのおことわりをさせていただきたいと思えます。

それでは、時計がなくて大変不自由なのですが、3時30分スタートということで、この10分間でいろいろな情報交換とか、あるいはチラシをとったりとか、トイレ休憩に活用してください。よろしく願いいたします。

《休憩》

団体名：NPO法人白井助け合いネット

事業名：ふれあいサロン事業

【発表】

[発表者]皆さんこんにちは。助け合いネットの会長をしております〇〇でございます。隣が会長代行の〇〇でございます。本日の報告につきましては、〇〇さんからいたしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

[発表者2]それでは、助け合いネットの報告をさせていただきます。

題名としては、お手元にずっと全映像分がコピーされていると思っておりますので、必要な部分だけはお話させていただきますが、実際に29年度はさつきの里、それからウィズホスピタル、リハモードヴィラですね。簡単に目的と事業ということで出ております。第3条をお読みいただければ、読みますと長くなるのですが、要は地域の助け合い活動をやっていこうと。その中で、第5条に法人が目的とするための活動として、居場所、サロンでございます。これの設置、運営に係る支援事業をやっていきますということになっておりまして、いつごろからどんな活動をしたかというのが、今の画面に出ております。

NPOの設立が25年でございますが、23年からこの〇〇会長がベースの活動を始めていまして、26年から27年の2年間は、市の福祉計画との整合性を討議したり、それから、これからこういうふうにやっていくというようなことで、実際は自治会さんにいわゆる足で歩いていける地域、ここにサロンを全部つくってもらいたいということで、その支援をしていくというのが大きな目的だったのですが、実際には、自治会さんも活動が多岐にわたっておりますので、サロンをやるまでなかなか人手も期間もないというところが多いものですから、実際にネットが自主活動を始めた。これが昨年度の実績でございますが、10回やっておりますけれども、支援対象が残念ながら6回プラス1回ぐらいです。ブルーで出ておりますのは、これは支援で申請したもの以外になっております。

この大きな理由は、ウィズホスピタルさん、この事業そのものは各施設さんの場所をお借りしておりますので、施設さんのご事情によって、最初の計画どおりにいかなかったというのが大きな反省点です。実際はある程度のお話し合いをさせていただいて、何月にやらせていただくというようなことは決めておったのですが、特にウィズホスピタルさん、最初の37名来ていただいた、かなり盛況だったのですが、こちらは入居者の増大だとか、場所の問題で、お食事をされるところでやりますので、どうしても1時半ぐらいの時間の設定ですと、難しくなってきた。そういうことで、回数が減っております。

ただ、今ごらんいただきましたさつきの里さんのサロンが、ウエートが大きかつ

たのですが、これを過去2年間やりました経験で得られた結果としましては、集っていただく方がお誘い合わせ、それから、実は後の写真でごらんいただくとおわかりになると思うのですが、健康への関心は皆さん、ご高齢の方が多いため、非常に高いのですが、それが続けられるというようなこと、それと、皆さんと一緒にやれるという中で、もう一つは、歌でございます。先ほどから歌の関係、いろいろご発表ありましたけれども、みんなで歌う楽しさ、これが参加意識を非常に高揚させたのではないかと。

もう一つは、折り紙作業。これは、教え合うことでお隣同士が、あるいは皆さん仲よくなるということでございます。

次に、皆さん集まっていたいただくための呼びかけの方法というのが、チラシを最初は白黒でつくりましたけれども、きっちりカラーにしようということで、ネットで頼みますと比較的お安くできましたので、カラー印刷を原則として、白井の各地域、全域に配布をするという形で現在まで行ってきております。

特に、チラシについては、実際には1,000枚ぐらい頼みますと、かなり余裕を持ってあちこちに配れますので、最初は500枚ぐらいとか300枚ぐらいで経費を少なくしておったのですが、最近は1,000枚ぐらいつくって配布させていただいております。

特に、お誘い合わせということで、この辺のところは、これはサンプルでございます。さつきの里さんは3回目、ウィズホスピタルさんは初期のもので、中見ただくと、必ず地図を出しております。参加の方はご高齢の方が多いということで、地図を出して、それからサロンの内容としては、大体1時半から3時半ぐらいまでの時間帯でやっております。折り紙、音楽、それから頭の体操というのは、これはちょっとしたクイズ形式みたいな形で、皆さんいろいろ答えていただくということをやっています。全部楽しくやらないとおもしろくないだろうと。

歌のほうも、演奏だけでなく一緒に歌うということで、サロンごとに今出てきましたような本をつくっております。それから、折り紙の一部なのですが、これ全部やりますと、時間内にできませんので、全部スタッフの人にパーツをつくっていただいて、このパーツの組み合わせでということ。これは、今年のクリスマスのリースです。

これはさつきの里さんのレッドロープ。皆さんこれ目当てにおいでになる方が多いです。ここの写真がちょっと暗くて申しわけないのですが、手づくりで、牛乳パックとストローで竹とんぼをつくって飛ばしたと。広いところだったので、比較的皆さん参加されて、楽しくやっている。これがさつきの里さんの演奏の風景です。お琴と尺八で、結構皆さん楽しんでいただいて。

これが脳トレではないのですが、ちょっとしたクイズ。これはハーモニカの演奏。こちらは折り紙で、やさしいかぶとをつくって。一人一人写真撮ろうと思ったら、

皆さん、グループでということ。これがウィズホスピタルさん。今映っておるのは、こちらの施設の方です。これが梨トレ体操をやっておりますが、これが歌です。これが保健師さんによる骨密度の測定。リハモードヴィラさんのほうは、これが歌なのですが、実際はアカペラでリードしてもらって。これも去年のクリスマスです。これも先ほどの折り紙のリースをつくりました。こういうことで今後も続けていきたいなど。実際には、今やります1番、施設の関係。そのほかに地域貢献事業だとか、飲食店さんだとか、こういうところももう少し余裕が出てきたら巻き込んで、輪を広げていきたいと思っております。

実際には、申請しましたのが約10万円。7万円で実際の実績は9万3,000円ぐらいでございました。ありがとうございました。

【質疑】

[委員長]ありがとうございました。そうしましたら、ご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。はい、どうぞ。

[委員]先ほど発表させていただいたユウカリアンサンプルの〇〇といます。とってもいろいろな活動をなさっていて素敵だなと思ったのですが、例えば、私たちのような他の団体さんとの連携というようなことは考えてらっしゃいますか。

[発表者2]大いに考えております。特に音楽、それから折り紙、こういう関係のイベントの中の催し物は、なかなか大変なのです。

ただ、ネットとしては、ご協力いただいたときの経費のお支払いを今までは一銭もしていません。そういう意味で、交通費ぐらいのご提供でやっていただける方というのがネットの前提なのですが、他団体さんとのコラボというのは、現実には今、コーヒーを沸かして補助していただくのは、いきいきライフさんというところとコラボしております。そういう意味で、アンサンブルさんが音楽関係でご協力いただけるのなら、とっても先行きありがたいなとは思っております。

[委員]ありがとうございました。私たちは、原則的に全くのボランティアで動いておりますので、お話があったらこのいい機会がチャンスかなと思いますので、よろしくをお願いします。ありがとうございました。

[発表者2]ぜひよろしくをお願いします。

[委員長]これを機会に連携が深まるといいですね。ほか、いかがでしょうか。特にご質問されていない委員の方、せっかくなので。はい、どうぞ。

[委員]とても素晴らしい活動と思うのですが、このサロンの実績を拝見いたしまして、富士地区で子育てサロンというのをなさっているのですが、これは子育て中のお母さんだけを対象としたサロンなのでしょうか。

[発表者2]これは写真入れていなかったのは、補助金対象ではないので入れていな

いのですが、富士地域に神社がございますね。あそこで子育てという名目なのですが、地域の方全員が集まって、結構人数多かったです。子供さんたちも、コーヒーは子供さんたちだめなのですが、お菓子を用意して、そういう意味ではテーブルでお年寄りの方だとかの交流は、野外でしたけれども、コーヒーも随分提供しました。その結果、その次にやったときは、富士地区さんのほうでは、もうただではなしに50円ぐらい取れよというようなことがあったのですが、ご参加いただいたのは、もうお祭りみたいな感じで、老若男女もいっぱいおいでになりました。

特に、この移動サロンというのを現実、私どものほうやっています、コーヒーサーバーからのコーヒー全部先方へ持ち込んで、テントのあるところでも、それから、露天でも全然関係なく、お店をやらせていただいています。そんなことで、多分、報告の中では人数が未カウントになっていました。約120になっていました。

[委員] どうしてお聞きしたかと申しますと、いろいろなセンターの中で、お母さんと子供を対象にした催しあるのですけれども、そういうところは同じ年齢のお母さんと子供だけが集まって、なかなかお年寄りの方のいろいろな知恵とか、そういうものを聞く機会もなかなかないものですから、こういうふれあいサロンというものを通じて、1人で子育てしていると煮詰まってしまうお母さんとか、そういう方たちが高齢の方たちと一緒に触れ合うことによって、いろいろな悩み事を聞いてもらったり、高齢の方のお知恵を拝借したりすることができたら、とても素晴らしい生きた集まりになるんじゃないかと思ったものですから、これからもよろしく願いたいと思います。

[発表者2] ぜひお声掛けいただければ、時間さえ合えばいつでもご参加させていただきます。

[委員長] というわけで時間になりましたので、どうもありがとうございました。

[発表者2] ありがとうございました。

団体名：特定非営利活動法人しろい環境塾

事業名：四季の花・植物で里地里山を彩る市民活動による環境保全

【発表】

[発表者] しろい環境塾の〇〇と申します。しろい環境塾は、平成13年、西暦で言いますと2000年に設立されまして、ことしで18年目ということで、白井市の中でも古いほうに属すというようなことを聞いております。

時間の経過に伴いまして、理事長も交代しまして、私が5代目になっておりますので、私はなりたてでふなれな点があるかと思いますが、よろしく願いたいと思います。

最初に、環境塾の概要を説明させていただきます。しろい環境塾は、会員数が約100名ということで、この補助金対象の事業以外に、環境保全ということで幅広く活

動を行っておりますので、会員も多いという形になっております。

活動日は月曜日、水曜日、土曜日の週3回、1日4時間程度。白井の平塚の林の中に活動拠点を設けまして活動をしております。事務所は、旧平塚分校というところに事務局も構えさせていただいております。

今回のテーマは、四季の花・植物で里地里山を彩る市民活動ということで、活動発展型の補助金ということで、25万円の補助金をいただいて活動させていただきました。

事業内容でございますけれども、平成13年設立ということで、平塚地区を中心とした地域の里地里山で活動を行ってまいりましたのですが、近年、農業者の高齢化及び後継者不足ということで、耕作放棄地、休耕地が非常に広がっておりまして、農業活動を基本とした美しい里地里山の景観が失われつつあり、危機感を感じております。

そのため、事業概要としまして、白井市北東部の平塚地区及びその周辺地域である金山落から下手賀沼にかけての地域の川沿い及び道路、休耕地畑を活用して、景観植物、景観作物を栽培して環境整備を行い、次世代へよりよい環境を継承して安らぎのあるまちづくりに寄与するという概要で、今回、新しい事業に取り組まないといけないということで、事業を設定しております。

実施体制といたしましては、しろい環境塾の会員及び公募の一般市民を主体として活動をする。それから、連携としましては、美しい手賀沼を愛する市民の連合会、それから地元の農家及び市民有志とでつくられております平塚協議会と連動しまして動いていこうという形でございます。

告知方法としましては、広報しろい、地域の新聞、新聞等の折り込みチラシに活動内容、活動日を掲載しまして参加者を募集する。それから、しろい環境塾のホームページに活動内容を掲載し紹介する。それから、先ほどからもありましたようにカラー印刷のチラシを配布して募集をしていくという方法をとっております。

事業内容としましては、年間スケジュールに基づきまして、一括で募集したのですが、ちょっと方法が悪かったということで、1年間こういうことをやるよということで、どうぞということをやったのですけれども、それがニーズに合っていなかったということで、しろい環境塾の会員及び家族を中心として活動しまして、さらに、しろい環境塾のほかのイベント、体験講習会、それから行事等で紹介して、参加者を募集して活動をしたという形でございます。

事業成果としましては、従来から季節の花の栽培、手入れを行ってききましたが、地域を広げ、景観作物、植物の栽培の広がりを実施できました。特に、カンナ街道、沼沿いに金山落沿いにあるのですが、カンナの栽培につきましては、平成30年度、今年度に地元自治会が行う白井市沿道みどりの推進事業のカンナ街道の復活の団体

活動につなげることができた。昨年、しろい環境塾で一部だけ植えてみたところ、それをさらに広げて活動していただけたという形になります。

今後の展望としましては、白井市民団体活動支援補助金によりまして、栽培した植物の種、株を有効活用して、また花を咲かせていく。それから、補助金によりまして購入できました備品類等の草刈り機等を有効活用し、環境保全に活動を維持します。

事業の内容、主な活動としましては、ここにありますように、1から9までありまして、特に2番目のひまわりの栽培、これは道路からも目立つ花ですので、いいのかなと思います。それからカンナ街道の復活の試行。それから6番目の特定外来植物ナガエツルノゲイトウ、これが川の中はかなり発生して、田んぼの中にも入りつつありますので、それを確認して、将来的には除去する方向に持っていきたいと。

それから、古代米、コスモスの栽培。それから9番目に掲げておりますように、四季の花、里山の花、風景の写真パネルを作成して、いろいろなイベントで展示していくという形で、こちらの後ろにA0のパネルで3枚、春、夏、秋と平塚周辺の花をこんなものがあるというもので、駅の構内での展示、それから、各センターまつりでの展示等で紹介して、広がりを持っていければいいと考えております。

活動エリアとしましては、右側の写真にあります池のようなブルーのところは下手賀沼、それにつながるところが金山落というところで、ここでナガエツルノゲイトウが発生しております。それから、3年後ぐらいからこの金山落の改修計画が始まりますので、生物多様性の保全というようなところも見守っていければいいなというふうに考えております。

右の下のほうが、主な活動エリアのベースキャンプ等があるあたりの位置を示しております。写真で4枚紹介しておりますけれども、左の上が金山落の写真で、この部分がナガエツルノゲイトウということで、非常に繁殖力の強い特定外来生物ということで、これが用水路のポンプ、排水路等の取入口を塞いでしまうということで、印旛沼等で非常に被害が出ているものが手賀沼にもあるという形です。

右側の写真は、古代米の赤米と呼ばれる古代米の穂が出ている状態でこういうふうに見える色をしていると。それから、左の下がヒマワリ、右の下がカンナ。このカンナは、我々が栽培したものではなくて、今まで40年前に植えたものが少し残っているところを大きく写したもので、これをこっちは500メートルぐらいにわたりましてカンナの株を植えて、カンナ街道の名を復活させていこうという形になっております。以上でございます。

【質疑】

[委員長] 毎度お時間ぴったりでありありがとうございます。そうしましたら、委員から

質問させていただきます。いかがでしょうか。はい、お願いします。

[委員]今、平塚地区を中心ということなのですけれども、将来的に白井全域にいろいろな形でという取り組みをされるご予定ってございますか。

[発表者]最初に会の趣旨のところでは申し上げたかと思いますが、ニュータウンと対比して、従来の農村の里地里山が残っている平塚とか、そのあたりの周辺の工業団地のちょっと右側から沼にかけてのその豊かな自然を残していこうというのが、我々の会の目的ですので、全域までに広げる力はないと思います。

[委員]ありがとうございます。それから、もう一つ、本質的な話じゃないのですが、教えていただきたいと思うのですが、今活動されている中で、特定外来植物の生育場所確認ということで確認できた。ああいうのって取ったりしちゃいけないのですか。

[発表者]移動が禁止されているようなものですから、市の環境課さん等と共同して除去作業をしないといけないということで、まず、どこにあるよと、どこの田んぼにも水路にあるよというのを確認していくのが今のところの作業です。非常に除去には膨大な力と費用がかかりますので、ちょっとNPO単独ではできない作業ではないと思います。

[委員]ありがとうございます。

[委員長]ほか、いかがでしょうか。

[委員]外の作業になるので、とても夏なんか特に大変なんじゃないかなと思うのですが、一緒にやっていただく参加者を集めるのはとても大変なんじゃないかなと思っているのですが、こういう方たちに一緒にやってもらいたいんだということと、あと、こういう楽しさがあるから一緒にやりましょうというPRポイントをいただけたらと思います。

[発表者]ありがとうございます。会員の多くは、定年退職後の男性中心で、10年ぐらい前までは、60歳定年で何かすることないかということで、農業とか林業とかそういうものの知識が身につけばということで多く入っていただいたのですが、最近70歳ぐらいまで働けるような機会がありまして、我々も新しい方がなかなかふえないということで、先ほど発表させていただきましたけれども、月曜日と水曜日と土曜日というふうに活動日設けておりまして、特に土曜日に若い方々、それから女性の方々が、子供さんのお休みのときに参加していただけるような形ということで、広く若い人にも参加していただくということで会員をふやしていきたいなというふうに思っております。

それから、農業、林業が中心ですので、体力面、それから、夏場ですと熱射病とかそういうものが心配になりますので、十分な休憩をとるとともに、去年あたりからサマータイムということで、夏場の作業時間を涼しいうちに始めて終わるとい

対策も考えて、健康とけがのないようにというふうを考えて活動しております。

[委員長]ありがとうございました。あと、お一方ぐらいいかがでしょうか。

[委員]この白井の景観をつくっていくってとても重要な活動だと思って伺っていました。農地に景観植物とか景観作物を植えるとおっしゃっていたのですけれども、それってどうやって決めていらっしゃるのですか。

[発表者]休耕された水田を復活するというのが一つありまして、それから40年前、50年ぐらい前まで、裏作として麦の栽培なんかが行われていたのですけれども、そういうのも復活して、景観にそんなにこだわるわけではないのですけれども、少しでも作物を栽培する、それから、植物を栽培することによって農地化していこうというのが、農地化の復元というのが一つの目的になっております。

[委員]わかりました。ありがとうございます。

[委員長]というわけで、時間ぴったりでご協力ありがとうございました。

[発表者]ありがとうございました。

団体名：ときめきマルシェプロジェクト

事業名：ときめきマルシェ

【発表】

[発表者]平成29年度市民団体活動支援活動発展型補助金団体ときめきマルシェプロジェクトの〇〇です。

[発表者2]〇〇です。

[発表者]それではこれから29年度事業報告をいたします。まず、私たちの事業目的のご説明をいたします。

平成27年、市の主導で社会実験として実施したときめきマルシェ。当初から事業目的は、子育て世代の定住促進というものでした。これは、全国的にいわれている人口減少による地域衰退を防ぐための施策です。そのために、ときめきマルシェは、30代から40代までの子育て世代の女性が魅力を感じるよう、おしゃれをテーマに掲げ、28年度に市民団体に事業主体を移行してからも、事業目的を引き継いで活動を続けております。また、にぎわいももう一つのテーマとなっており、人々が魅力を感じて集まる要素の強いイベントとなるような企画を心がけてきました。

マルシェとは、フランス語で市場のことをあらわしており、出店者とお客が商品を挟んで触れ合いながら売り買いをしているその場面が想像しやすいことから、近年は国内の多くの地域で交流イベントとして開催されており、手づくり品などの販売が盛んに行われています。

市による社会実験を市民団体活動の形で引き継ぎ、マルシェ開催を通じて、魅力を感じるようなまちづくりの一助となることをミッションとして活動しております。

事業実施前に考えた目標は、動員目標、経済目標の2本柱となっております。動員目標といたしましては、3,000人を目指して活動するということを掲げ、にぎわいづくりという目的にしました。経済目標は、事業の継続性を高めるため、平成30年には補助金を利用せずに活動ができるくらいの独立性を持てるように決めました。

事業内容について説明いたします。

平成29年度は、5月に第3回、10月に第4回マルシェを開催しております。場所は両日とも白井総合公園で実施いたしました。まず、3回目のマルシェは5月13日土曜日実施予定でしたが、雨のため14日の日曜日に延期して開催いたしました。出店は67店舗、ピクニックマルシェと題し、公園の自然を満喫しながら買い物を楽しんでもらえるよう企画いたしました。白井産のトマトを使用したトマトすくいには、子供たちに人気があり、行列ができていました。来場者数は約3,000人ありました。

第4回マルシェは、10月28日、土曜日に開催いたしました。雨のため撤収を30分ほど早めましたが、それでも5,500人の来場があり、フェイスペイントスペース、フォトコーナーを用意し、SNSを組み合わせ、個々の楽しさを共有、発信することができました。また、自主出店として、綿あめ販売を実施しました。出店数は90店舗ありました。テーマとなったハロウィンに合わせてフェイスペイントなどの魅力発信が、集客と新たな出店者獲得につながるような工夫を積み上げました。

当日は、スタッフ15名で、それぞれ担当の持ち場を分けて運営いたしました。イベントとしての奥行きを広げるため、音楽も取り入れました。流山市で活動している地域活動団体おとえんを招いて音楽を流してもらい、市をまたぐほかの団体との交流への足がかりといたしました。

告知の方法といたしましては、ときめきマルシェホームページ、フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、ライン、地域新聞、千葉県観光サイト、ラーバンネット、千葉テレビ、市内公共機関ポスター掲示で告知いたしました。

また、ターゲットとした子育て世代の女性に直接届くように、幼稚園、保育園、小学校にチラシを配布しました。補助金を使用してチラシのデザイン外注を試みしました。ほかのマルシェに出店していた子育て中の女性にデザインを依頼、対象層である30代から40代の子育て中の女性が魅力を感じるチラシをつくることができました。チラシをデザインした女性が出店することや、プロフィールもSNSで告知しており、子育て中で忙しい中でも多彩な女性が活躍できるマルシェであることをアピールできました。マルシェの企画段階においても、同じ境遇の女性にとって、心ときめくようなイベントであることを十分にアピールできたものと思われま

す。事業実施中に起きた問題といたしましては、出店数が予想をはるかに上回ったことにより、告知をする際に、出店情報の取扱量が増加したため、負担が大きくなったことが挙げられます。出店者の情報を誤って告知しないよう慎重な確認が

必要となったため、二重、三重に情報を照合し確認して、出店者情報が正確に伝達できるように心がけました。

次に、事業成果について報告いたします。事業内容の項目でもお伝えしましたとおり、回を重ねるごとに出店者数、来場者数が確実に増加しております。また、SNSを利用したことにより、広範囲にわたる広報活動が可能となっていて、市外にも徐々にイベントの知名度が上がっています。10月に実施した第4回のマルシェでは、90店舗の出店者のうち、白井市内からは15店舗の出店があったのに対し、千葉県内他市からは68店舗、ほかは東京都3店舗、茨城、埼玉、神奈川県、愛知県から各1店舗の出店がありました。SNSでのマルシェの告知が広範囲に効果があることがわかります。マルシェのアクセスを確認すれば、白井市の名前に行き当たることとなりますので、白井市の知名度向上の一助となったことと思われまます。

今後の課題ですが、出店者数、来場者数が増加していくにつれ、出店審査や当日の管理運営の仕事量が増加し、今のスタッフ人数では対応が難しくなっていることが挙げられます。今後、外部委託できるだけの経済的体力をつけ、仕事量に見合った人員配置ができるよう、事業運営の採算性を十分に検討していく必要があると考えます。

今後の展望についてもお話しいたします。平成30年度以降の事業継続の見通しや、事業発展の構想についてですが、今後もマルシェの開催を継続し、「いつものまちでちょっと違った日曜日」というときめきマルシェの社会実験当初からの骨子を生かしてまいりたいと考えております。

また、白井に住む人にも訪れる人にも魅力のあるときめきと緑あふれる快活都市を心に刻むことができるような事業展開を心がけてまいります。そのため、次のような活動の柱を掲示し、プロジェクト一同取り組んでまいりたいと考えております。

1、新鮮なときめきのため、常に挑戦を続けていくこと。2、誰もが笑顔で過ごせるマルシェづくり。3、白井から発信し続けることに誇りを持って取り組むこと。ターゲットであります子育て世代の女性が魅力を感じるようなおしゃれなイメージを失わず、スタッフの多様な能力の組み合わせによる化学反応を起爆剤とし、ますますときめくようなマルシェをつくり上げてまいります。

以上、平成29年度ときめきマルシェの事業報告を終わります。ありがとうございました。

【質疑】

[委員長]ありがとうございました。そうしましたら、また質問させていただきます。いかがでしょうか。はい、お願いします。

[委員]ときめきマルシェに最初の第1回目から見させていただいているのですけ

れども、今年もちょっと見に行ったのですが、年々参加者がふえているように感じたのですけれども、3年ぐらいたつと参加者も大体こういうイベントだということで、見なれてきたりして、なかなかふえないという悩みが出てくる可能性があるのですけれども、マルシェの場合、ことしも90店舗と参加者が増えてきているのですけれども、そこは何が一番ポイントとして捉えていますか。

[発表者]出店者がふえた理由は、SNSでの発信をこまめにしているのと、あと、出店者が出店者を誘い合って、ふえてきていることも多いと思います。

[発表者2]今のお話に補足なのですが、5月に行われましたマルシェでは、さらに来場者数が増え7,000人を超えておりますので、出店者数も100を超えております。徐々に増えてきているのですが、その数の論理にとらわれずに、おしゃれということを守らずに、新しい挑戦を続けていくというのがマルシェのモットーじゃないかなと思って、私ども事業を展開しております。よろしく願いいたします。

[委員]第1回目のときは、西白井の駅前で行われていたのですが、2回目以降から総合公園で行われているようなのですが、その1回目から2回目に移った理由とずっと場所をかえないという理由はどういったところがあるのでしょうか。

[発表者]1回目は、白井市が主体となりまして開催していただきましたので、私たちはお手伝いという形でかかわっていたのですが、西白井の駅前にはぎわいをつくるということで、市のほうで場所は決めていただいたのですが、私たちは総合公園が新しくできまして、そこを活用している団体がいなかったもので、そちらで景色もいいですし、駐車場の問題が駅前ですとありますけれども、総合公園ですと駐車場をお借りすることができますので、そこが一番総合公園で行ってほしいと決めた理由になります。

[委員]ちょうどターゲット層に入っていると思います。マルシェの時期になると、ちょうどママ友とかもすごく話題になって、行ったとかいう話が出るのでこれからも頑張っていたきたいなと思っています。

[発表者]ありがとうございます。

[委員長]ほかはいかがですか。

[委員]直接、拝見したことはないのですが、きょう初めて発表を見させていただいて、本当にときめきそうな、いいことをやってらっしゃるなと思いました。

そこで質問なのですが、対象も若いお母さんということなのですが、スタッフの方の人数とか年齢層とかも教えていただけますでしょうか。

[発表者2]スタッフの人数なのですが、出入りあるのですが、15名ぐらいで運営しております。子育て世代が中心になっておりまして、私自身も小中高と子供がおりますし、〇〇さんも高校生のお子さんがいらっしゃいます。もっと若いママたちもスタッフの中にはおりまして、一番活動していただいている駐車場係なんかを

やっただいていてる若い人だと、20代の男の方もいらっしゃると思いますので、多種多様な人材で行っています。統計的には申し上げにくいのですが、そんな形でやっております。

[委員]女性限定ではないということですね。

[発表者2]ボランティアスタッフ募集しておりますが、女性に限定はしておりませんので、イクメンも募集しておりますので、よろしくお願いいたします。

[委員長]では〇〇委員、どうぞ。

[委員]済みません。時間オーバーしていますけれども。

マルシェさんのほうは、私も第1回から参加させてもらっているのですが、当初は、参加者を多くするためには、焼き鳥とか日本酒を置いたほうが良いと言ったのですが、今、大反省しております。こういったおじさんはいなくていいのです。大事なものは、若いママたちをターゲットというコンセプトがぶれていないと、これが成功の秘訣じゃないかなと思います。

それを前提に、しいて言えば、白井市に、今の段階でしいて言えば、もっとこうしてほしいなというのがあれば、お話いただければと思いますけれども。白井市に対していかがでしょうか。

[発表者2]特に思いつかないのですが、協力していただいておりますので、大丈夫です。もっとときめきと緑があふれていけばいいなと思っています。

[委員長]どうもありがとうございました。

(5) 講評 市民活動推進委員会 委員長

(特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 代表理事)

[事務局]7団体の皆様、本当にありがとうございました。それでは、市民活動推進委員会を代表いたしまして、委員長から講評をいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

[委員長]皆さんお疲れさまでした。傍聴の方、ご参加ありがとうございました。

講評といたしますか、感想も含めて幾つかお話しさせていただこうと思います。

まず、白井市の市民活動の厚みといたしますか、活発さに感服いたしました。東京都の新宿区ですとか、浦安市ですとか、奈良県奈良市とか、私もいろいろな自治体で委員やらせていただいているのですが、その中でも本当に白井の方々、市民の方がみずからこうやって立ち上がって、白井市のために何か、白井市民の方々のためにやろうという団体さんがこんなにも多く、しかも熱い志を持っているということで、本当に恵まれたいい市だなと思います。

各団体さんへの一言ずつコメントさせていただくとしますと、まず、ステップさんにつきましては、委員からのご質問にもあったとおり、まさに現代的な課題であ

る子供の貧困というか、教育支援というところを将来的には白井市さんが直接やるべきというご意見がありましたけれども、まず民間側が立ち上がってご支援されているということで、今年度も活動発展型で申請採択されている団体さんですので、引き続き今年度もぜひ頑張ってください、発表の中にもありましたけれども、白井市内全域での展開というものもぜひ頑張ってくださいと思います。

二つ目の団体さんのまんぷく食堂さんにつきましては、ちょうど私も今、食品ロス削減推進法案という議員立法のお手伝いをしているのですが、フードバンクからのご支援もあるというのが、次のふじ元気ひろばさんにもあった、食に関するところであったと思いますけれども、本当に多元的な役割を持っていて、一つはやはり子供たちと、あとお年寄りの方々、いろいろな方が集まって一緒に食卓を囲むことで、いろいろな効果が出てくるということもありますし、先ほどご紹介した、それはフードバンクとか地元の農家さんからの支援というのは、広く言えば食品ロスの削減につながるかもしれないし、あと農園ですね、行く行くは農園でみずから育てたいということもおっしゃっていましたが、それは地産地消であり、みずから市民の方々が、例えば耕作放棄地や休耕田を使って農業をするということであれば、農業の次の担い手をつくり出していくということにもなるでしょうし、障害者就労、B型なのかわかりませんが、そういった障害者就労の場としても活用したいという、すごく全国的にもモデルになるような取り組みだと思います。まんぷく食堂さんは、今年度は補助金の申請をされていませんけれども、民間の助成金ですとか、あるいは自主事業の財源寄附をしっかりと集めていただいて頑張っていたきたいと思います。

ふじ元気ひろばさんは、今年度も申請していますけれども、本当に地域を巻き込んで、お答えにもあったとおり、介護されている方が来られてというようなエピソードもお聞きして、本当に元気ひろばという、まさに元気になって帰っていただいているという非常にいい取り組みだと思います。余談ですが、私もジャガイモを家庭菜園で育てているので、そろそろ収穫だなと思いながら聞いておりました。

あと、4番目のユーカリアンサンブルさんは、余談なのですが、私、佐倉市のユーカリが丘というところに住んでいたもので、ユーカリアンサンブルさん、しかもコアラのTシャツということで、つながりをちょっと感じちゃったのですが、音楽を通じた社会貢献ということで、ご質問の答えにもあったとおり、最初は多分サークル的に自分たちで楽しむというところから、音楽の楽しさをぜひ地域の方々にも聞いていただきたいということで、サークルから一歩社会貢献活動に踏み出されたというところで、7人の限られたメンバーの中で、入れかわりもありませんながら続けられているということをごくいいことだと思いますので、この補助金の成果を生かして、また末永く続けていただけることを願っております。

次が、白井助け合いネットさんですけれども、助け合いネットさんは今年度も活動発展型のほうで申請していただいていると思います。サロン事業の中でいろいろとご質問にもあったとおり、もうちょっと連携できるというところがさっそく出てきそうですので、他団体との連携も進めながら、ある意味で社会福祉施設を特養のホームを地域に開くという役割を助け合いネットさんが媒介となってやっていたという、これまたモデルとなるような事業だと思しますので、今年度も頑張っていたいただきたいと思います。

あと、しろい環境塾さんにつきましては、私もこのNPOとか市民活動の世界に入ったのが、環境系といいますか、中学校で学校ビオトープとかをつくって、そんなところから今NPOの活動をやっているものですから、自分も大学生の時代から、しろい環境塾さんのお名前は知っておりまして、そういった方々と今こんな形でお会いできてうれしいかぎりなのですけれども、理事長さんも5代目ということで、非常に長年の歴史と経験と実績をベースにしながら、大切な活動をされていると思います。

余談になるのですけれども、千葉県の佐倉市も印旛沼でカミツキガメが特定外来生物で、今大変なことになっていまして、特定外来生物とか生き物系は早めに対策をしておかないと、どんどん、どんどんふえていって、もう気づいたころには手の打ちようがないと。もう今さら印旛沼のカミツキガメとかどうしようもなくなっていますので、そういった意味でも、いろいろな方々が白井の自然環境にも関心を持っていただいて、保全していくということをやっていないと、今残されている素晴らしい里地里山というものが後世に引き継がれないということにもなりますから、引き続き、ぜひ頑張っていたいただきたいと思いました。

7番目のときめきマルシェさんは、本当に全国的にもモデルとなるような、意見の中にもありましたけれども、倍々ゲームとはいきませんけれども、毎回、右肩上がり参加者数と出店者数も増えているということで、本当に全国的にもモデルとなるような事業だと思しますし、試しに一人頭のコストパフォーマンスというのを計算してみたら、補助金20万円で来場者数が8,500人だと、一人頭たった23円なのです。別に一人頭の単価が全てじゃないですけれども、皆さん自身が頑張っていって、限られた財源で最大限の効果を生んでいただいているのじゃないかなと思いますので、今後は、今のところ任意団体だと思っておりますけれども、ちょっと規模が任意団体の手に負える規模の限界にもう来ているのかなと。もうそろそろ1万人とかになってしまいますので、今のところ事件、事故は起きていないと思うのですけれども、万が一そういったことがあったときに、任意団体だと代表者の責任が非常に重くなってしまうので、そろそろ法人化とかを検討されてもいいのじゃないかなと思いました。

というわけで、全体としては、本当に素晴らしいプレゼンをしていただいて、また白井市のまちサポさんもできたことですし、一緒に市民活動を盛り上げていければなと思います。本日はどうもありがとうございました。

[事務局]委員長、ありがとうございました。

本日は、新しい試みではございましたが、数々の7団体の皆さんの発表を聞きますと、熱い思いで立ち上がって活動されている方、あるいは何気ないところから活動が始まった方、あるいは放っておけない事情を何とかしたいということで地道に活動を積み上げてきた方、いろいろな方々がいらっしゃると思います。これからの白井のまちがこのまま高齢化の波にのまれてしまうか、それとも息を吹き返して、それを今度は上げていくか、私たち市民、そして行政の職員次第だと思います。ぜひこういった市民活動の輪を皆さんとともに広げながら、そして、市民団体活動支援補助金を有効に活用していただいて、市民参加・協働のまちづくりを一緒に進めていけたらというふうに思いました。

最後に、このしろい市民まちづくりサポートセンターの会場でやらせていただいたわけですが、一言、このセンターのPR、お知らせをさせていただいて、閉会とさせていただきたいと思います。

それでは、センター長、一言お願いいたします。

(6) お知らせ

[センター長]まちサポ、まちづくりサポートセンターの〇〇でございます。

今日は7団体の皆様、大変ホットな活動をご報告いただきましてありがとうございました。また、委員の先生方も熱心に聞いていただいて、ご講評も含めまして、大変有意義な場をありがとうございました。それから、後ろにいらっしゃる皆様方、予想外に大勢の方お集まりいただいて、本当に市民活動の延長上にまちづくりがあるのだなという実感を持たせていただきました。

まちサポにとっては初めてのイベントが、こうした報告会の場であったことは、大変有意義であったなと思います。この多目的ホールは、展示のほかに、いろいろなセミナーであったり、ワークショップであったり、こういった場であったりということで、これからますます活用していきたいと思っておりますので、ご協力のほうをお願いいたします。

昨日でちょうど4週間、生まれてまだ4週間というところです。3週間目には、展示の方を含めまして、ご来場者様1,000人をカウントいたしております。皆様のこういう場であったり、それからコーディネート、それから情報発信といったようなところで、まちサポがこれからかわらせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

今日の模様も、まちサポの通信創刊号ということで発信させていただきたいと思
いますので、お手にとっていただいたときには、今日のことも振り返っていただけ
ればと思います。今後ともよろしく願いいたします。

[事務局]以上をもちまして、平成29年度白井市市民団体活動支援補助金公開成果報
告会をお開きとさせていただきます。本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。